

エルペノル(Elpenor)は[オデュッセウス](#)の部下である。力もなく、頭も冴えない男だった。オデュッセウス一行が[キルケ](#)の島を出発する朝、酔って屋根の上で寝ていたエルペノルは、落ちて死んでしまう。オデュッセウスは冥府でエルペノルの亡霊に会い、きちんと埋葬することを頼まれる。

解説

- 別名、エルペーノール。
- エルペノルの不注意な事故死は、作品全体の中でも特に、愚かなふるまいの象徴となっている。
- エルペノルは、ジェイムズ・ジョイス「ユリシーズ」の登場人物パトリック・“パディ”・ディグナムの元になった人物といわれている。(第6章「ハデス」でブルームは酒の飲みすぎで死んだディグナムの埋葬に立ち会う)

オデュッセイアでのエピソード

- [オデュッセウス](#)一行が[キルケ](#)の住む[アイアイエ](#)島を出発する前の晩、エルペノルは酔って屋根に上り、そこで寝た。次の朝、彼は屋根にいることを忘れ、地面に落ちて死んでしまった。(第10歌)
- [オデュッセウス](#)一行が冥府を訪れた時、最初に現れたのはエルペノルの亡霊だった。彼は[アイアイエ](#)島に戻り、自分の死体きちんと埋葬してほしいと願う。オデュッセウスはそれを聞き入れ、彼を彼の武具と一緒に埋葬すると、船の櫂を墓標に立ててやった。(第11歌)